

千葉商科大学同窓会 神奈川支部会報

発行・編集
坂本 周男
事務局(〒)238-0114
三浦初声 和田
33081-27
TEL & FAX
046 (888) 1270

創立三十周年を迎えた神奈川支部

千葉商科大学同窓会神奈川支部長 坂本 周男

千葉商科大学同窓会神奈川支部が設立して、今年で満三十年を迎えました。設立の経過を辿ると昭和五十二年(一九八二年)に千葉商科大学創立五十年記念行事が、国府台の学園本部で行われました。昭和五十五年に千葉商科大学同窓会も創立十周年を迎え全国十二の都道府県に同窓会支部が結成されていきました。

この頃、神奈川県では千葉商大の前身であった巣鴨高等商業(高商)で巣鴨学園創立者遠藤隆吉博士から薫陶を受けた一期生の中村一昌氏を中心として神奈川支部結成の下準備が始まりました。県内の商大卒業生の方々の絶大な支援と中村氏の献身的なご尽力により同窓会支部設立のための準備会が組織され昭和五十七年五月十六日横浜駅の東口にあったスカイビル内ゴール

デンルームに於いて、神奈川支部創立総会が開催され、千葉商大同窓会の十三番目の支部として誕生し以来三十年今年には大きな節目の年であります。

また、当時、平塚・県央地区の同窓生の「湘葉会」の中心であり、本会の現副支部長の山口寛一氏(昭和三十五年卒)が地域の同窓生の各家庭を訪問して入会を勧められたこともあって、「湘葉会」の方々も神奈川支部に加わり確固とした支部基盤が作られました。

支部発足当初は、定期総会は隔年の開催で行われていましたが平成八年の第八回定期総会に於いて、毎年定期総会を開催することになりました。この間、歴代支部長・役員として全員一体となった支部運営活動により、全国各支部に先立って「神奈川支部ホームページ」をインターネット上に開設したり、先進的な取り組みがなされてきました。

特に、母校及び同窓会本部の発展を念頭に支部活動の活性化には意を用いてきました。今日、著しい少子化の進行により大学への進学率は向上しているものの進学者数は年々減少し、多くの大学で定員割れを起しているとのことですが、

二十年前の一九九二年(平成四年)の十八歳人口は二五万人であったが、二〇〇九年(平成二十一年)には、四〇%、八万人も減少し、今から六年後の二〇一八年(平成三十一年)以降は更に急激に減少することが確実になっております。

全国の大学が直面しているこの厳しい環境の中でも、母校千葉商科大学は原田喜博理事長・島田晴雄学長を基に母校の存続・発展のため大変な尽力をされています。私たちも、この実態を直視し「母校あつての商大同窓生」を胸中に、微力ではありますが、支部会員一体となって、母校発展のために尽くしてまいりたいと存じます。

また、全国支部共通の課題である『支部の会合に卒業生多数の出席、財政運営の確立、支部の充実と活性化』等については『和と透明性』を支部運営の基本に支部活動を進めてまいりました。支部役員及び会員各位のご支援に深く感謝申し上げます。

今回念願の神奈川支部会報を発行することになりました。

他の支部会報と比較すれば大変見劣りするものですが、これから、少しづつ充実して、『ホームページ』と併せて情報発信に大きな力となり、支部の一層の進展に繋がることを期待するものです。

会員諸氏の投稿などこれからの紙面づくりにお力添えをお願いし、創刊号への支部長の挨拶といたします。



平成23年度総会 <ローズホテル横浜>